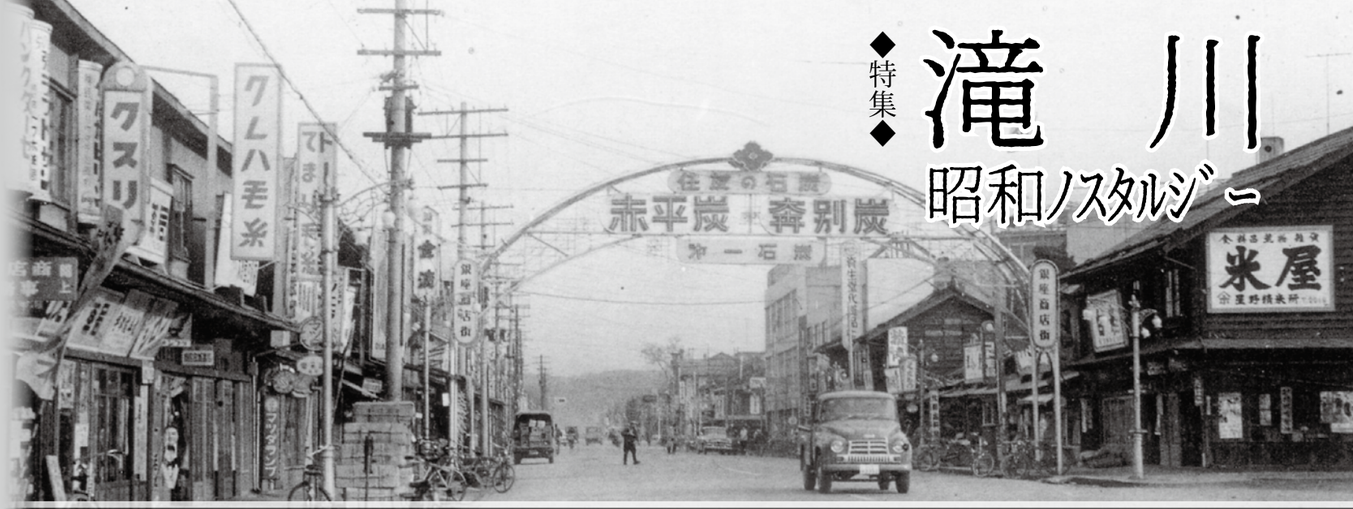
◆特集◆ 滝川 昭和ノスタルジー



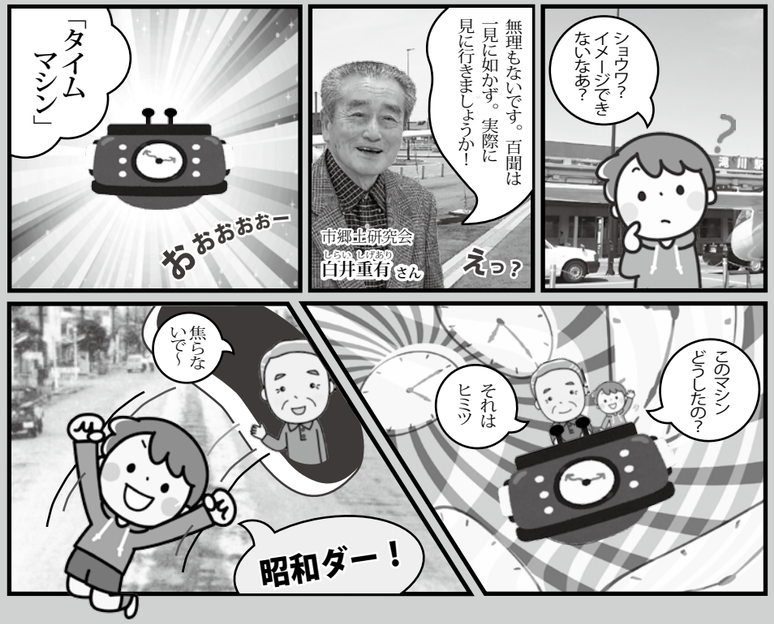
モーレツな時代へタイムスリップ。

懐かしい看板が並ぶ銀座商店街(昭和30年代)

昨今、幅広い世代で昭和30年代をフィーチャーした「昭和レトロ」が流行しているのをご存じでしょうか？

「昭和」は若者にとっては古いけど、どこか新鮮な世界であり、上の世代にとっては古き良き時代の記憶であり、懐かしい風景です。では、昭和30年代以降の滝川はどのような時代だったのでしょう。

実は、戦後の滝川町の財政は、一時期を除き毎年度赤字に苦しみ、昭和31年には財政再建団体の指定を受けるような状況でした。しかし、そこから滝川駐屯地創設や北電火力発電所の建設を経て、大きく躍進していったのです。まさに激動の時代、「モーレツ」な滝川を振り返ってみましょう。



滝川市制施行&名店ビル

▲名店ビル前

道内では25番目、全国では508番目の市が誕生

今日は昭和33年9月13日、ここは完成したばかりの滝川市民の誇り、当時の建物では近隣ナンバーワンの「名店ビル」の前です。

2か月前の市制施行で誕生した「滝川市」を祝ってさまざまな行事が行われています。特にこの祝賀パレードには、小・中学生など約4千人が参加しており、皆さん日の丸の小旗を振りながら目抜き通りを歩いていますね。この後も、仮装パレードや映画会、野球大会、演芸公演など夜までお祭りムードが続きますよ。

のどかな中に活気ある街なか

▼銀座通り

▼滝川駅前

▲大通り

銀座通りに出ましたよ。昔は広小路とも呼ばれていました。この辺は滝川で最もにぎやかな通りの一つですが、まだ自動車が普及していないので自転車が道路の真ん中を走っていますね。

少し歩いてこちらは大通りです。右手に見えるギリシャ風建築の建物は拓殖銀行、今の北洋銀行です。同じ建物なのでわかりますよね。

【昭和30年】
- 滝川駐屯地創設
- 人口3万人を超える

【昭和33年】
- 市制施行「滝川市」誕生
- 名店ビル完成
- 北電滝川火力発電所起工

【昭和36年】
- 新市庁舎完成・移転

【昭和37年】
- 北電滝川火力発電所完成
- 石狩川橋竣工

道内一の規模を誇った北電

【昭和43年】
- 函館本線電化工事完了。初電車が滝川駅を出発
- 中央バス滝川ターミナル完成・移転

【昭和46年】
- 滝川市と江部乙町の対等合併により「新・滝川市」誕生
- 第一回歩行者天国開催

【昭和48年】
- 文化センター、市立図書館開館
- ホテル三浦華園が近代化
- 高林デパートがオープン

【昭和49年】
- ホテルスエヒロがオープン(近隣一の高層ビル)

近代化が進む滝川

中央バス滝川ターミナル▼

滝川駅▼

▲ホテルスエヒロ

▲三浦華園

賑わう街なか&公園

▼滝川公園

▲滝川神社祭典(露店)

▲歩行者天国

すごいにぎわいでしょう。ここは「鈴蘭通り」の歩行者天国です。回を重ねるごとに花壇や噴水、遊具、パラソルベンチなどが設置され、花火大会も一緒に開催されたんです。市民の憩いの場として定着してますね。

そしてここは、滝川公園です。春は桜、夏はボート、秋は紅葉、冬はウインタースポーツなどが楽しめるので、大人気です。あら、松尾羊肉店のチラシ…花よりジンギスカンですね。

最後に、みんながよく知る滝川神社祭の露店ですよ。場所こそ違えど、にぎわいは今と同じです。早く新型コロナが落ち着き、開催できる日が待ち遠しいですね。